

◆救命知識を習得

【三重・伊勢】伊勢市楠部町にある伊勢市消防本部で11月中旬、普通救命講習が開かれ、同JA営農部施設管理課の職員11人が参加した。利用者の急病時にいつでも対応できるよう、救命知識を習得することが目的。参加した職員は応急手当の目的や必要性の説明を受けた後、成人を対象とした心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用方法を実践しながら学んだ。同課の坂口和弘課長は「施設を利用する生産者の中には、高齢者も多い。利

用者がいつでも安心して施設を利用できるように体制を整えたい」と話した。